



発行元：株式会社サポート・ワン・サービス
愛知県津島市愛宕町四丁目 1 1 3 〒496-0036
代表 TEL：(0567) 26-3921
FAX：(0567) 26-3922
ホームページ http://www.s-o-s.co.jp

第8回小規模多機能ケア全国セミナーin広島



初心を思い出す、原点を振り返る良い機会となりました。
12/8・9(2日間)広島大学で開催された小規模多機能ケア全国セミナー。参加して思い出したのは、今までに関わってきた何百人の利用者さん。津島市立込町の自宅併設事務所で家政婦紹介に従事しながら、病院付添い廃止に伴い必要に迫られ平成7年に在宅ケアサービスを立上げた。平成10年、津島市本町の宅老所を開設。平成12年の介護保険開始後は訪問介護を開設、平成13年に津島市愛宕町に全ての拠点を移し、今では小規模通所介護・住宅型有料老人ホーム・小規模多機能型居宅介護の運営に関わっている。
今、各事業所の特性を生かして多様な相談に答えられるよう頑張っているが、ふと疲れてしまう。何故、こんなに数多くの事業展開になってしまったのか、こんなに忙しくて良いのだろうか…。はたまた、次はどういったことを必要とするのだろうかと気持ちと身体と現実が右往左往していた。

『ひとりの人のために』
講義の中で頻りに飛び交うこの言葉。そう、その通りなのだ。いつもそうだった。〇〇さんの「困った」に対応するために在宅ケアサービスを立上げた。△さんの「何とかならないだろうか。」のために宅老所を立上げた。介護保険が始まり、利用者さんの利用料負担を安価にするために介護保険事業所申請をした。「ここで死にたい。」と要望されても宅老所では認知されず、住宅型有料老人ホームとして届け出た。小規模多機能もそうだった。訪問・通い泊まり居宅(ケアマネ)業務がひとつの事業所でまとまっている。ひとりの人のためにとっておきの頑張りが発揮できると想いを募らせ、制度として確立することが待ち遠しかった。全て思い出した。ひとりのために何らかの形で役に立てる。こんなに嬉しいことはない。ひとりの人のためには自分のためでもある。頑張ろう。(A・H)

定員 & 行事予定 & 年末年始のお知らせ / SOS

☆ナイス・ケア(定員なし)・・・新規利用大歓迎
12/31～1/2 休業

☆ナイス・ケア(請負/自費)・・・新規利用大歓迎
365日営業(12/29～1/4は通常料金の50%増し)

☆ナイス・デイ(定員10名/日)・・・新規利用大歓迎
12/31～1/2 休業

日	月	火	水	木	金	土
6	4	5	6	6	6	5

☆ナイス・ホーム(定員21名)・・・登録者14名
365日営業

☆愛宕の家(定員17名)
・・・現在入居者14名
365日営業

☆つしま紹介所
・・・新規求職求人者様大歓迎
12/31～1/2 休業

《12月の予定》
10日(月) 外食デイ
20日(木) 避難訓練
クリスマス会

日々感じること / 看護師コーナー <M・T>

先月号より続き～《そもそもすべての『治療』というのは命を助けるため、すなわち延命のために行われるものだ。そこにわざわざ『延命』と付けるのは『無意味な』という枕言葉を暗黙の了解とするためである。わざわざ『無意味な』治療をしますかと問うのは、しますと返事した場合、自分は賛同しないような治療をあなた方は選択したのだから、死なない程度のことはしてあげるけれども、それ以上のことは一切の期待は許しませんよ、という無言の圧力を与えることになる。これは患者の命と引き換えに、治療効果を上げる努力を放棄する都合の良いトレードとなるだろう。同様に延命治療しません、と返事した場合は、どのような悪い結果になっても責任はなく、しないと選択したあなた方が決めたことですよ、という風な保身ができる。そして「自分だったとしても無意味な治療はしません」と我が身のように語り、家族に同情したふりをしてあげられる。》
～来月に続く



「愛宕の家での看取りについて」という同意書を作成した。同意書を作った理由は、入居される際に「どんな生活をしていきたいのか、どんな将来を迎えたいのか」を、入居したことをきっかけに、本人や家族と一緒に考える機会を持ち、スタッフも入居者の「老い」にお付き合いする覚悟を受け止める為である。住宅型有料老人ホームとして開設してから約6年。看取りまで関わらせていただいた方は13名。愛宕の家での生活を共にしながら、本人や家族と一緒に「死」に向き合い、話をしてきた。体の状態が変わるたびに、そして突然くるかもしれない「死」にはどうしたい？と普段から自然に会話をしていた。愛宕の家での看取りを希望して下さる本人や家族も多く、そんな時に少しでも分かりやすく将来の形を考えるきっかけがあれば…。本人や家族には時間をかけて順次、説明しますが、取り急ぎ、書面を公表することにしました。(但し、これは公的に精査された文章ではありません。あくまでも、愛宕の家として、入居者本人や家族と「死」に向き合うために作成した文章です。施設としてどうなのか…法律的にどうなのか…などという目では見ないでください。)

愛宕の家での看取りについて

愛宕の家の入居に伴い、下記の内容を話し合ったうえで愛宕の家での生活を送ることに同意します。

<p>医療面について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 看護師は常駐していませんが、処置や緊急時など、必要時には対応できるよう位置づけています。 * 病状変化や悪化が予測された場合、看護師または施設責任者が医師と連携を取り、指示を仰いで対応します。 * 施設外の医療機関と提携しているため、24時間いつでも直ぐに医師が対応できるとは限りません。 * 医師により、回復の見込みが低いと判断され、かつ医療機関での対応の必要性が低く、愛宕の家での看取りが可能と判断した場合、医師の指示のもと、愛宕の家において本人の苦痛が少なくなるために必要と考えられる医療処置を行います * 愛宕の家で行える医療処置には制限があります。 * 愛宕の家での看取りを希望されていても本人に苦痛があり、医師や看護師がその苦痛を取り除けないと判断した場合は本人と家族の意向を確認した上で、救急車を呼ぶ場合があります。 * 愛宕の家での看取りを希望するか、医療機関への入院を希望するかは本人や家族の選択を最優先します。 * 入院を希望する場合は、スムーズに入院が出来るように支援を行います。 * 看護師または施設スタッフにより死亡が考えられた場合、すぐに家族・医師に連絡し、医師の往診を待って死亡の確認となります。
<p>生活面において</p> <ul style="list-style-type: none"> * 出来る限り本人の様子を見ながら入浴や食事・雑床などができるようにします。 * その都度、本人や家族と気持ちを確認しながら援助していきます。 * 愛宕の家の終末期においては家族が泊まる事が可能です。 * 死亡後、本人や家族の意向に沿って対応します。 <p>上記の内容で、入居後に考えられる急変時の対応として心臓マッサージ・人工呼吸は希望しないことに <input type="checkbox"/> 同意します <input type="checkbox"/> 同意しません</p> <p>平成 年 月 日 利用者氏名： 印 利用者代理人： 印 本人との関係() 住所： 連絡先：</p>

この同意書は入居時や入居中の体調変化の様子に合わせて、その都度、確認させていただきます。



☆Tさんのご冥福をお祈りします☆

訪問介護・通所介護の利用から始まり10年以上SOSの事業所をご利用くださったTさんが、12月5日亡くなりました。胃瘻の増設をするのか・しないのか、どんな形が本人及び家族にとって一番良いのか、一緒に悩みながらの日々でした。『不安定な時期を愛宕の家で乗り越え、おばあちゃんの様子安定したら、できれば自宅に引き取り、最期は家で看取りたい。』と希望されていた家族。入居中のあまりにあっけない最後でしたが、『苦しみも少なく良い顔をしていました。これで良かったと思います。私の肩の荷も下りました。』との言葉に、私たちも救われた気持ちです。

《ご挨拶》

12月も半ばとなり、年末の気忙しさを感じる今日この頃です。思いもよらず雪が積もったりして、気候も何となく不穏気味ですが…。
「おはよう。」と今朝も声を掛けながら朝食を運ぶ。その時は必ず「昨夜はよく眠れた？」と聞く。要介護者を預かっている身としては、入居者が静かに眠ってくれることが何よりの幸せだとつくづく感じています。認知症の方は特に精神的な安定がその日常生活の様子に影響し、周囲の人々までがその精神性に振り回される事が多く、施設全体にとって影響が大きいからです。その基本はやはり良く眠る事が出来るという事。見学に来られる方や、月1・2回の往診の先生からも、「ここはのんびりしてるなあ。」とよく言われます。木造だからなのか、入居者さん達の様子、特に顔つきが物語っているのだと思う。今年も1年皆様のご支援により無事過ごすことが出来そうです。
職員一同心より感謝申し上げます。